

福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	0054		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	環境都市工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	授業時にプリントを配布する。				
担当教員	市村 葉子				
到達目標					
(1) 時、場所、場面に応じて適切な言語表現を行う力を身に付ける。 (2) 聞き手を意識して、自分の言いたいことが相手に正しく伝わるように説明する力を身に付ける。 (3) 相手の意見を聞き、自分の意見とのちがいを考えながら、互いによりよい議論をするための力を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
言語表現力	時、場所、場合に応じた言語表現を行うことができる。		時、場所、場合に応じて適切な言語表現を行うことができる。		時、場所、場合に応じて適切な言語表現ができない。
発信力	自分の意見を、相手にわかりやすく説明することができる。		自分の意見を、相手にわかりやすく説明することができる。		自分の意見を、相手にわかりやすく説明できない。
コミュニケーション力	相手の意見を聞き、自分の意見とのちがいを考えながら、建設的な意見を出し、互いによりよい議論を行うことができる。		相手の意見を聞き、自分の意見とのちがいを考えながら、互いによりよい議論を行うことができる。		相手の意見を聞き、自分の意見とのちがいを認めることができず、よりよい議論ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 RC2 JABEE JC3					
教育方法等					
概要	社会に出るにあたって、必要となる実用的な日本語能力を養成する。レポートや報告書、論文などの文章は、思いっぴきままに書くのではなく、構成を考えたいうで書かなければならない。その方法を学ぶ。また、「正しい日本語」や「間違った日本語」と言われる表現をただ暗記するだけではなく、そこにみられる体系を学ぶ。これらの日本語能力をさらに伸ばすために、実際に意見文作成やプレゼンテーションを行う。				
授業の進め方・方法	授業は、まず教員による講義を行い、その講義内容に関する課題に取り組む形で進める。授業に臨むにあたって、事前にForms課題を課すので、それに回答する。その回答を活かしながら、授業を行う。				
注意点	レポートやメール課題等の提出物の期日は厳守すること。また、与えられた時間に課題が終わらなかった場合、自宅学習で補うこと。 欠席した場合は、該当回の課題を必ず教員に確認し、期日までに取り組むこと。 評価方法とその割合は下記の通り。100点満点で60点以上を合格とする。 前期：中間試験（30%）、期末試験（30%）、提出物（25%）、Forms課題（15%） 後期：中間試験（30%）、期末プレゼンテーション（30%）、提出物（20%）、Forms課題（10%）、1分プレゼンテーション（10%） 予定は変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス / 書きことば	一年間の授業の流れを理解する。 / 書きことばと話しことばの違いを理解する。	
		2週	句読点・文体	文体・句読点の打ち方を学び、適切に使える。	
		3週	接続詞・文のねじれ	接続詞の使い方・文のねじれが起きる原因を学び、作文に応用できる。	
		4週	段落	段落分けをする際のポイントを理解する。	
		5週	自己PR (1)	社会人基礎力（ヒューマンスキル）とは何かを知り、自己PRの材料を集める。	
		6週	自己PR (2)	前回作成した才良を基に、自己PR文を作成する。	
		7週	自己PR (3)	自己PRチェックシート及びグループ添削により自己PR文を遂行する。	
		8週	履歴書の書き方	履歴書の書き方を学び、実際に作成する。	
	2ndQ	9週	中間試験	これまでの学習をまとめ、表現する。	
		10週	待遇表現 (1)	尊敬語・謙譲語Ⅰのちがいを理解する。	
		11週	待遇表現 (2)	謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱのちがいを理解する。	
		12週	待遇表現 (3)	丁寧語と美化語を理解する。敬語の運用について、理解を深める。	
		13週	待遇表現 (4) / 手紙・メールの書き方 (1)	待遇表現におけるウチとソトを理解する。 / お礼状の書式を学び、下書きを作成する。	
		14週	手紙・メールの書き方 (2)	お礼状を推敲し、清書を書く。	
		15週	復習	試験にむけて、これまでの復習を行う。	
		16週	前期まとめ	前期の学習をまとめ、後期へとつなげる。	
後期	3rdQ	1週	期末試験解説 / アクセント	自分のアクセント型と東京式アクセント型を比較し、違いを考える。	

4thQ	2週	ポライトネス	ポライトネスを理解し、身の回りで使用されているポジティブポライトネスとネガティブポライトネスを説明する。
	3週	アナロジ的思考	アナロジ的思考を生かし、新商品、新サービスを考える。
	4週	理系の文書	文学的文書と対照的な理系の文書とは何かを理解し、今後の文章作成に活かす。
	5週	根拠	強い根拠、弱い根拠の違いを学び、意見文を作成する。
	6週	引用／一分プレゼンテーション (1)	正しい引用の仕方を学ぶ。／プレゼンテーションの方法を確認し、聞き手を意識したプレゼンテーションとは何かを考える。
	7週	一分プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを行うための設計図を作成する。
	8週	中間試験	これまでの学習をまとめ、表現する。
	9週	中間試験解説／一分プレゼンテーション (3)	試験結果をもとに、これまでの復習と今後の課題発見を行う。／一分プレゼンテーションを行う。
	10週	一分プレゼンテーション (4)	プレゼンテーションを振り返り、自分の長所と課題を知る。
	11週	パラグラフ・ライティング	パラグラフ・ライティングとは何かを学び、今後の活動に生かす。
	12週	期末プレゼンテーション (1)	期末プレゼンテーションの目的及び注意点を学ぶ。
	13週	期末プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションの準備を行う。
	14週	期末プレゼンテーション (3)	プレゼンテーションの準備を行う。
	15週	期末プレゼンテーション (4)	クラス内でプレゼンテーションを行う。
	16週	一年間のまとめ	一年間の学習をまとめ、これからの学習につなげる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後8,後11,後12,後13,後14
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,後8,後11,後12,後13,後14
			社会生活で使われている故事成語・慣用語の意味や内容を説明できる。	3	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,後8,後11,後12,後13,後14
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後8,後11,後12,後13,後14
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前2,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後8,後12,後13
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前9,前15,前16,後6,後7,後8,後9,後10,後12,後13,後14
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前6,前7,前8,前16,後5,後6,後7,後8,後10,後12,後13,後14

				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前5,前6,前7,前8,前9,前15,前16,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前16,後1,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後14
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前16,後2,後3,後4,後5,後8,後10,後12,後13,後14
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前6,前16,後2,後3,後4,後5,後8,後12,後13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前4,前7,前16,後8,後10,後12,後13,後14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前9,前15,後7,後8,後9,後12,後13,後14,後15

評価割合

	中間試験	期末プレゼンテーション	提出物	Forms課題	1分プレゼンテーション	合計
総合評価割合	30	30	20	10	10	100
基礎的能力	30	30	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0